

事業所名

子ども発達支援てだのふあ

支援プログラム

作成日

2024 年

12 月

20 日

法人（事業所）理念		障害のある人もない人も共に豊かに暮らせる共生社会の実現を目指します						
支援方針		児童発達支援～放課後等デイサービスの長期間にわたる支援を、スモールステップで継続的に行います。専門職員による一人ひとりの評価に基づく、設定活動と環境整備を職員全員で共有し、支援していきます。将来の目標に向かって家族、幼稚園・保育園、学校、相談支援員と連携して、社会で生きる力を習得できるように一緒に考えていきます						
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	食事動作（食事形態、スプーン・フォーク、箸の持ち方支援）、衣服の着脱、排泄（トイレトレーニング）など生きていくための動作が少しずつ身に付くよう、スモールステップで支援します。食具の使用についてはご本人の発達段階に合わせてすすめていきます。（スプーンとフォークは握り持ちから支えて移行持ちまで段階的に支援、お箸は支えて持つ形が整ってから）誤飲、誤嚥がないよう食事形態に留意し、摂食の際は必ずそばで見守ります。						
	運動・感覚	目と手の協応動作を目標とした活動を机上で行います。着席して注目し、手指が使えるよう様々な道具や教材を呈示します。（片栗粉、小麦粉粘土、キネティックサンド、絵の具、糊、はさみ等）机と椅子は本人の身体、状況に合わせて準備します。（肘が机に、足の裏が床に接地している状態）身体を動かす活動では、本人の身体機能に合わせてバランスボールやスイングなどの運動遊具を呈示します。						
	認知・行動	身支度を同じ手順で繰り返し行い、理解を促します。リュックを顔写真と名前の明記された場所に置く、連絡帳を所定の箱に入れる、シール帳にシールを貼るなど決まった場所に準備し（環境設定）、一人で取り組むことができるよう支援します。ご自分でできる箇所は見守り、支援が必要な部分を細やかに評価し介助することで、できることが増えるよう支援します。						
	言語 コミュニケーション	「いつ」「どこで」「どうした」の状況説明ができるようになることを目標にやりとりを行います。発話が困難な場合は、「はい」「いいえ」の反応や表現を見逃さないよう受け止めます。（行動、視線、姿勢、表情などから伝わってくるもの）動作模倣が可能であれば、ジェスチャー、マカトンサイン、手話などの表現方法を促していきます。（遊びや設定活動の中で実践しながらすすめます）						
	人間関係 社会性	本人の好きなもの、興味関心のある事柄を通じて、まずは大人と一緒に関わられるよう支援していきます。一緒に活動することで「やってみたい」「楽しい」経験を積み重ねていけるよう、細やかに教具や玩具を準備します。順番やルールなどを発達段階に合わせて呈示し、アナログゲームや体操などの活動への参加を促します。						
家族支援		保護者の方にご家庭でのお子さんの様子についてお聞きしながら（食事、排泄、好きな遊び、外出時など）、必要な支援やコミュニケーションの回り方について連携します。必要に応じて懇談を行います。			移行支援		必要に応じて併用されている幼稚園、保育園を訪問したり、園の先生に事業所での様子を見学していただき、それぞれの場所での評価と支援方針について意見交換を行い、連携を図ります。	
地域支援・地域連携		医療機関（発達外来など）、相談支援事業所、保育所、幼稚園等利用されている機関と連携します。必要な場合は評価や支援方法などについて、本人の環境に合わせ考え、実践につなげます。			職員の質の向上		毎日の支援の様子を動画で振り返る事で、職員の支援の内容を視える化して、質の向上につなげる	
主な行事等		放課後等デイサービスの長期休暇にあわせて、プール活動（衣服の着脱の訓練）を行います。幼稚園・保育園と重複しないよう季節ごとの活動を設定します。						